

小島 拓也 隊員の 地域おこし協力隊通信



浜益区での
活動報告会の様子です

3/15(日)に浜益で、3月21日(土)に厚田で、地域おこし協力隊の活動報告会を行いました。私達の予想をはるかに上回る、多くの皆様にお越し頂きました。この厚田に着任して過ごした一年間で感じた事をお話ししましたが、皆様にはどの様に伝わりましたでしょうか。

聞き逃したという方、ご連絡いただければいつでもお伺いいたします。次の一年間もいろいろな皆さんの話を聴いて、活動していきたいと思えます。どうぞお気軽にご連絡ください!

[最近は、こんなことをしました。]



3月5日、厚田のさざなみ会館にて高齢者クラブの桃の節句の行事がありました。この日は、傘寿と米寿のお祝いの会も同時に行われ、80歳と88歳になった皆さんには記念品が贈られ、「ひなまつり」の歌を歌ってお祝いしました。

お祝いの食事でお出されたのは「かねとも寿し」さんの、見た目も華やかなちらし寿司でした! こうした集まりによって、高齢者のみなさんが外に出てお友達と会える機会が毎週つくり出されているのは、とても良い事だと感じました。



この日は桜もちを作りました

3月11日、望来コミュニティーセンターみなくるにて、「いきいきハビリ望の会」が開かれました。高齢者の閉じこもり防止の為の事業として行われているこの事業には、厚田支所の保健師さんが来て、20名ほど集まった高齢者のみなさんと歌や体操、手芸、料理教室を楽しみました。この日は女性ばかりの集まりでしたが、男性の私が参加しても、とても楽しい時間を過ごす事が出来ました。



メガネケース作りの様子です

3月18日、虹が原会館にて「いきいきハビリ虹の会」が行われました。こちらで初めて体験した「あそびりテーション」は「シャッフルゴルフ」「テーブルボール」の二つ。その中でも「テーブルボール」は大変興奮する遊びで、全員でテーブルを囲んで座りバレーボールよりも一回りほど大きな、大変やわらかいボールを、両手を組んで転がしあうものでした。ボールをテーブルの下に落としてしまったら減点で、バツゲームは歌を歌うというもの。試合が白熱してくるとボールが宙を舞い、皆さんの頭や顔にボールがぶつかり、私もメガネが落ちそうになったのですが、そんな事に泣き言を言う方は一人もいらっしやらず、お構いなしにゲームが続きます。集中攻撃を浴びた私は、歌を歌うコトに…。皆さんのパワーに圧倒され、それが嬉しく感じるひとときでした。



写真は「シャッフルゴルフ」の様子です。テーブルボールは夢中になりすぎて、写真を撮れませんでした。

「添乗おつかれさまでした!」

3月13日、発足地区から発足地区の有償スクールバスに添乗して下さっていた宮岸さんが、園児の卒園と共に添乗のお仕事を卒業される事になりました。そこで、平成四年から24年間子供達を見守り続けて下さった事に感謝するお礼の会が発足の皆さんにより開かれました。宮岸さんには内緒で準備を進め、会場に突然案内されて驚く宮岸さんに子供達から花束が、そして、涙…。最後は皆で外に出てバスに手を振ってお見送りしました。



厚田区地域おこし協力隊 小島 拓也

携帯電話: 080-6069-5304

E-mail(個人): ishikarishiatsutakukojima@gmail.com

※1号・2号に記載のメールアドレスに誤りがありました。お詫びして訂正致します。

Facebook(フェイスブック)で、
厚田での暮らしを発信しています!
<https://www.facebook.com/kojitaku>

ウラ面は沼倉隊員に続きます!



沼倉 瞳 隊員の 地域おこし協力隊通信

地域おこし協力隊活動報告会を開催しました

3月21日(土)厚田保健センターにて、一年の活動を振り返る「地域おこし協力隊活動報告会」を開催し、75名の方にご来場いただきました。

当日は、浜益の協力隊も含めた各隊員からの活動発表、活動を振り返る写真展、活動内の創作物等やこれまでの協力隊通信の展示、そして厚田特産品の活用レシピと浜益カフェ・ガルの新メニューの試食会を行いました。また、試食会では、JA北いしかり女性部のみなさんが製造している「しその想い」の活用提案として、過去の協力隊通信で紹介した



「しそミルク」と「しそドレッシング」を試食していただいたほか、ご自宅ですぐに試していただけるようレシピの

配布と「しその想い」の販売ブースを展開し、多くの方にご購入いただけました。

厚田の皆さんへ感謝の気持ちを込めての報告会でしたが、ご来場いただいた方からは励ましのお言葉を多くいただき、身の引き締まる思いと来年度へ向けて更なる意欲の高まりを感じました。



▲こだわり隊のご協力により、試食ブース隣でしその想いを販売

「まで (まてい)」ってどういう意味？

先日望来の方とお話していたら、会話の中に聞き慣れない言葉が出てきました。「まで」という言葉です。「〇〇さんは“まで”だ」という使い方をしていました。

私が無知なのかもしれないと思い、聞き返すことが恥ずかしかつたので、その場では何食わぬ顔で会話を続行。文脈から、「まめな人」という意味だと推測し、会話は滞りなく進みました。

その後、本当に「まで」は「まめな人」という意味なのか確認するために調べてみました。インターネットによると、真丁寧 (まていねい) の略で漢字では「真丁」と書き、「気がつく」「丁寧である」「まめである」という意味を持つそうです。そしてこの言葉は北海道や福島県、長野県の方言で、地域によっては「まてい」とも言うようになっていました。

私も北海道出身者ですが、「まで」という言葉は聞いたことも使ったこともありませんでした。なぜ私の出身地である十勝では使われないのかはわからずじまいでしたが、もしかしたら入植したご先祖様の出身地が関係しているのかもしれない。

同じ北海道でも地域によって普段使われる方言が変わってくるのだなぁと感じた出来事でした。

にしんの背骨のふりかけ

厚田に来て新鮮な海産物が手に入りやすくなり、魚をたくさん食べるようになったと同時に、漁師さんと親しくなったことで、おいしい魚を食べられるありがたみを感じるようになりました。そこで、普段捨てている魚の骨も活用できないかと考え、にしんの背骨をふりかけにしてみました。背骨



をかりかりになるまで炒り、フードプロセッサーで粉々にします。かつおぶし粉と白胡麻を混ぜたらできあがり。厚田のほかほかご飯によく合います。

ウラ面は小島隊員に続きます！